

雑木林ファンクラブ 通信

住所: 〒247-0013 横浜市長区上郷町 1562-1 「横浜自然観察の森」 Tel:045-894-7474

自然の地アラスカを旅して

今から数年前、定年を間近に控え、脳動脈瘤の手術をしてこの世に舞い戻った。その経験が「今を楽しもう」と考えるようになった。その1つとして、言葉が通じず、食べ物が合わず、治安の不安等で今迄拒否していた海外旅行を、日本にない雄大な自然等を求めて出かけるようになった。その中で昨年旅したアラスカについて述べてみたいと思う。

9月直行便にてオーロラで有名なフェアバンクスへ。さらにアラスカで最も人気のある景勝地デナリ国立公園へ向かう。ここは「野生動物の国であり人間は絶対に邪魔をしてはいけない訪問者」とし、自然体系を破壊することがないように厳しく規制している。園内はシャトルバスでの運行。すでに黄葉となった木々が林立し、それを抜けると広々としたツンドラの真紅に染まった大地、遠くには冒険家植村直己氏が帰らぬ人となったマッキンレー(6194m)(今回天候により観ることができなかった)を始め雪を戴く峻烈な山々が連なっている。その中をグリズリーベアやムース等がのんびりと戯れ、オオカミがバスの前を我がもの顔に歩きまわる。自然とはすばらしきかな。

次にアンカレッジまで山岳地帯を移動し、「サファイア・プリンセス号」(11万6千トン)(日本で建造され、完成直前に火災に会い大きな話題になった船)でクルーズする。まずはカレッジ・フィヨルドで大小さまざまな氷河や、クジラやアザラシを波間に眺める。翌日メインの世界遺産「グレーシャー・ベイ」を見学へ。当日は霧が一面に広がり視界不良。それが氷河に近づく頃、突然霧が晴れ青空の中、間近に忽然と山々が霧の上に浮かび、更に海に虹が渡った。そして雄大な氷河に遭遇、船首で氷河の崩落を期待するが変化なし、特等席を離れると、すぐに「ドーン」という音と同時に、「氷河が落ちた」との叫びが聞こえ、あわてて元へ戻ると、まさに映像で見た氷河の一部が崩落する様子が見て取れた。

さらにクルーズでは白頭鷺が飛翔する様や流水に乗り遊泳するラッコ、川一杯に上りあがるサーモン、冬季オリンピックのバンクーバーの町を見学した11日間の旅であった。

この旅で雄大な自然に生命のエネルギー与えられた。また自然を大切にし、それを順守する努力には大いに感心させられる。一方、氷河の減少を見るにつけ、問題になっている温暖化の影響を感じさせられた旅であった。

こうした自然への好奇心は雑木林ファンクラブに参画し、会員の人達や自然から教えられる事が大きな要因である。当分はこのような自然を楽しんでいければと思う。

上野喜弘



デナリ国立公園(グリズリーベア)



グレーシャー・ベイ(氷河)

大きなサイズでご覧になりたい方はこちらへ

<http://zfc.yamagomori.com/alaska.html>

1. 4～5月の活動報告

- ① 4月20日(土)晴 20名 竹林整備、SF後片付け、SF振り返り(後述)
- ② 5月1日(土)晴 22名 竹林整備、クヌギ林下草刈り、炭材作成
- ③ 5月8日(土)晴 22名 9号緑地間伐・伐倒講習(17本伐倒)、竹林整備、木工
- ④ 5月15日(土)晴 18名 竹林整備、炭焼き(ドラム缶窯。ウバメガシ・竹)、日清オイリオ支援(桜林下草刈り)
- ⑤ 各水曜日ほかに準活動日として木工作業を実施



9号緑地間伐。好天に恵まれ果(はか)がいきました。御御付けの給食もあり、お昼は遠足気分です



ウバメガシ(姥目櫂)。関東学院から貰ったもの。備長炭の材料です。ご覧も通り、水沈します。6月の炭焼きが楽しみです

2. 5月度運営会報告 —5月15日開催—

- ① 6月の作業打ち合わせ
- ② 友の会安全細則勉強会
- ③ ZFC20周年記念イベントの打ち合わせ<佐野さんほか>

3. 5～6月度活動予定

- ① 5月29日 水曜日扱い(準活動日。炭小屋での作業主体)
- ② 6月5日 竹林整備、トウネズ間伐、池の上・桜林下草刈り、材皮むき、炭材作成。炊事当番:張間・林
- ③ 6月12日 同上、運営会・勉強会。同:鈴木・竹内
- ④ 6月19日 炭焼き(～20日。鬼塚・工藤・林?・赤羽?)、下草刈り、運営会・勉強会。同:佐藤・山田
- ⑤ 6月20日 森を守るボランティア体験(担当:自然と遊ぼう・森の絵本作りの会)
- ⑥ 6月26日 炭出し・製材・炭小屋整理、道具手入れ、クヌギ林管理作業。同:吉田・佐野
- ⑦ 毎水曜日:準活動日、ヤマザクラ育成床の作成等

4. スプリングフェア振り返り

- ① 今年度について
 - ・ 自然の風合いが生かされているものに人気があった。椅子(丸木製)・ふくろう・プランタ
 - ・ ヒノキブロックのひと掴み・輪投げ(笛)のようなゲーム性のあるものに人気
 - ・ 丸太伐りに人気(ZFC担当が足りず疲れた)
 - ・ 値付けに課題(安売りで売れた?)
 - ・ 作品がどんなものであったかの写真が残っていない
 - ・ 場所の問題(隣のチェーンソー等うるさかった)
 - ・ 花台を人形置き台に使う方もいる(固定観念に囚われない方が)
 - ・ 材料が足りなかった(製材した材料)
 - ・ 作品準備時間が足りなかった

② 今後について

- ・ 新しい作品候補:2段式プランタ・ヒノキの節を使ったブローチ・おがくずを使った作品・木肌(地肌)を生かした巣箱
- ・ 駕籠屋的なもの(乗り物)
- ・ ゲーム的なもの(ヒノキのひと掴み)
- ・ アルプホルンのステージ演奏(市に提案済み)
- ・ 焼きゴテの追加(人気:かぶと>葉っぱ>ZFC)
- ・ 値付け・作品写真等の出展前準備の充実
- ・ スケジュールを密に(作品作成と森林ボラ作業を明確に)
- ・ やってみたいものは、イラスト・ポンチ画を準備して提案ください(秋くらいまで)

5. その他

① ホタル観察会「ゲンちゃんヘイちゃんの紙芝居劇場」の協力依頼

- ・ 6月12日(土)・19日(土)・20日(日)・26日(土)19~20時
- ・ 直接センターに問い合わせください

② 横浜栄高校等のボラティア支援:7月31日予定

ボランティア体験が彼ら彼女らの心に刻まれるように心して対応しましょう

6. 下草刈りの意義

別紙資料をご覧ください。

今年はハチの被害がないように祈り頑張りましょう！

7. 編集後記

- ① 今月の巻頭コラムは上野さんです。人生に対する姿勢や見方は変えることが出来るんですね。病を得たときにそういう転機が訪れると聞きますが、そうでない普段の生活の中で転機を作ってみたいものです。
- ② 今年2010年はZFC20周年にあたります。佐野さんをリーダーとする記念イベントチームが動き始めました。楽しい企画を期待しています<メンバー:玉木・村松・鈴木・赤羽・竹内>。
- ③ 日清オイリオさんに桜林の下草刈りを手伝っていただきました。草が柔らかく鎌の刃が逃げてしまって大変でした。3~4月の寒さが効いていて草木の伸びも今一歩の様子です。
- ④ 暑くなってきました。熱中症予防のため水筒を各自必ずご用意ください。

以上

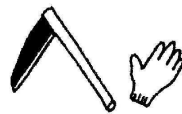
観察の森センター発行の「雑木林ファンクラブ」という冊子から抜粋しました。

雑木林のべえじ



その2

—下草刈りはなぜ必要か?—



夏がやってきました。セミの大合唱の中、林縁ではハチやチョウが飛び回っています。ススキやつる草が生い茂って、林のすきまをたちまちうずめてしまします。たくましい野生の生命を感じさせる季節です。

「コナラの林」では、7月からレンジャーとアルバイト諸君が下草刈りに精を出しています。アズマネザサが生い茂った林床を切り開いてコナラやクヌギの苗を植え、育てているのです。



かつての雑木林では、ススキ等の下草を刈り取って田畑の肥料の原料にしていました。たい肥は下草刈りやくずはきをして集めた草や落ち葉を積み上げ、家畜のふんをまぜて発酵させたものです。こうして林床は明るく風通しが良くなり、ヤブラン、シロヨメナなど林の草花とリンドウ、ワレモコウ等の草原の草花の両方が咲くいりどり豊かな場所となった、といえます。

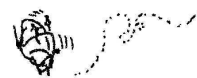
しかし戦後、化学肥料が安く大量に作られるようになると、こうした肥料は次第に使われなくなってきました。放置された林では下草がのさばり始めます。アズマネザサが密生するようになると、他の草をおおいつくすようになり、光が足りないため幼木が育たなくなる場所も出てきます。見通しのよかった林床はやぶだらけになります。こうして雑木林は、かつての魅力を失い、「荒れた」状態になります。

現在の「コナラの林」は、ほとんどがこういった状態なのです。昔のような夏緑樹林を復活させるには、また人手を入れていく必要があります。



関 谷見晴し台のすぐ下手の一角の林床は、手入れを始めて4年目に入りました。切り開いた当初は切株以外樹木がほとんどなく、アズマネザサの勢いに唖然としたものですが、今ではその後植えたコナラと、たねから自然に生えてきたネムノキやカラスザンショウが競うように育っています。大人の背の高さに達するものじきでしょう。5月にはここで、オオミドリシジミがきらきらと翅を輝かせて飛ぶのを見ました。先日はムラサキシジミが一頭、卵を産みに来たのでしょうか、コナラの間を飛び回っていました。

いずれはここも若木が密集して、間伐を必要とするようにもなるでしょう。そうなったら伐り出した材で遊具や炭が作れます。秋の木の遊び場作りや冬の炭焼き大会は、そのための準備でもあります。



林を育てるのは草花のように短時間にはいきませんが、夏緑樹の成長は意外と早いものです。あせらず続けて行きたいと思っています。